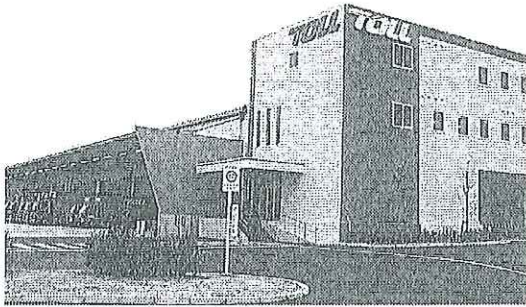


# 「新小牧支店」誕生

## フットワーク トール規格、初採用



フットワークエクスプレス(本社・大阪府吹田市、ニール・ポーリントンCEO)最高経営責任者は八日、愛知県春日井市に「新小牧支店」を移転開設した。「トールはひとつ」の企業文化に基づき、施設は「TOOL」のロゴやカラーで統一。国内初の「トールブランド」施設となった。(牧田 圭介)

愛知県小牧市にあった「小牧支店」。おとし、面積三万平方メートル、延べ床面積八千平方メートル。扱われる荷物は日用雑貨品など。国内の特種事業における重要拠点として、将来的には自動仕分けシステムの導入も考慮しているという。

「小牧支店」の老朽化や規模拡大などを目的に建設が進められていた「新トールの持つノウハウを最大限に取り入れた国内初の施設がこのほど完成した。所在地は愛知県春日井市上田楽町西島二九八。敷地

8日にしゅん工した「新小牧支店」。細部にわたるトールのアイデアが取り入れられている

施設は作業の効率化や安全性を重視し、信号機

効率化と安全性を重視

「トールは物流業を育てているという。いた。施設は商品や従業員に対する安全として掘え、しゅん工式の施設見、学合では、トールの幹の安全性を第一に考え、安心・安全に対する意識が「施設内に設計されているが、安心を最優先にしてい

**安心・安全 最優先に**

全意識が緩むことはない。いままでにはない。階段の色を、一段目だけ変えた方がよい。発想と、それを表現する力。その両方がトールにはある(玉川専務)。

「トールはこれまでフットワークの安全対策に、約九億円の費用を充てているという。施設は商品や従業員に対する安全として掘え、しゅん工式の施設見、学合では、トールの幹の安全性を第一に考え、安心・安全に対する意識が「施設内に設計されているが、安心を最優先にしてい

店内に防犯カメラを十三台設置。記録映像は本社のシステムと連動させ、遠隔監視も可能となっている。緊急時でも変わらぬサービスを提供できる設計にした」とした。

付きのドックエレベーターを十七台設置。最大六十六台の接車が可能で、そのうち長さ約十メートルの大型サイングの下では、大型サイング車二台が同時に荷降ろしできる。

セキュリティには万全の体制を構築。ゲートハウスでは入場者も車両をチェックするほか、支

環境活動にも積極的で、太陽電池利用のエコ対策や二酸化炭素削減に

日本市場に本気の姿勢

た。施設の完成を記念して行われた祝賀会では、トールグループを代表してポール・リトル会長がフットワークの株式取得後、百億円超の設備投資を行ってきた。トールが日本の物流市場に對し、本気で取り組んでいることを理解していただけたと思う」とあいさつ。

また、ポーリントンCEOも「トールのノウハウを詰め込んだ日本初の施設を最大限活用することで、顧客に対しより良いサービスを提供していきたい」とした。